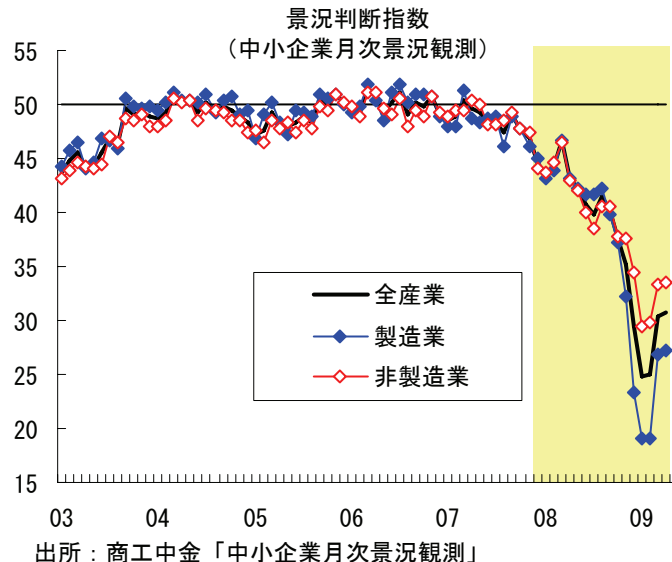
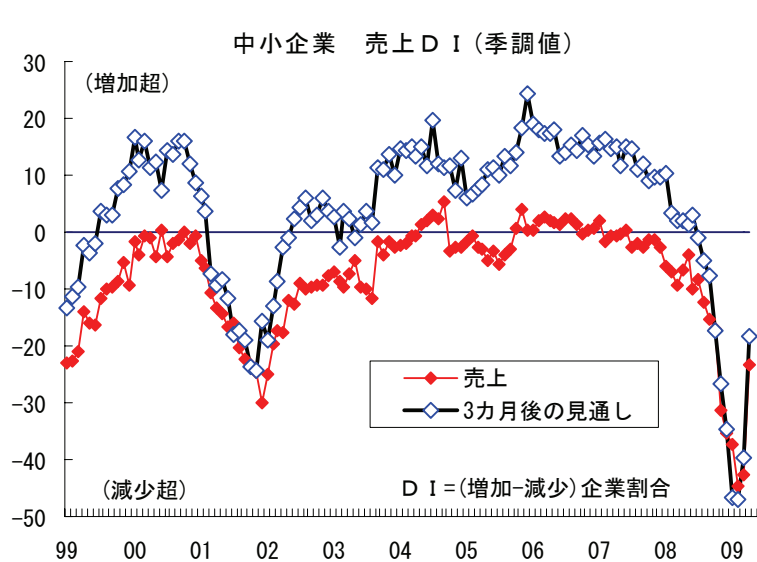


指標名：中小企業の業況 (2009年4月調査)

発表日：2009年4月30日(木)

～ 中小企業の業況感も改善 ～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 新家 義貴 (03-5221-4528)



## ○ 業況感が改善

本日、日本政策金融公庫から公表された「中小企業景況調査」では、4月の売上DIが▲23.2と、3月の▲42.7から改善した。増加と減少の分岐点であるゼロこそ22ヶ月連続で下回っているが、2ヶ月連続の改善の上、改善幅も大きい。また、売上見通しDIも前月から大幅に改善している。

商工中金から4月28日に公表された「中小企業月次景況観測」でも、4月の景況判断指数は30.8(3月：30.4)と小幅改善した。「好転」「悪化」の分岐点となる50は下回っているが、3ヶ月連続の改善である。

このように、中小企業の景況感は今年1～2月をボトムとして改善に向かっている。在庫調整の進展や輸出の下げ止まりが背景にあるものと思われる。これらの調査から判断すると、次回の日銀短観(6月調査)では、中小企業の業況判断DIが改善する可能性があるだろう。このところ、様々な経済指標で景気の下げ止まりを示唆するものがみられているが、中小企業についても改善の動きが出始めたようだ。

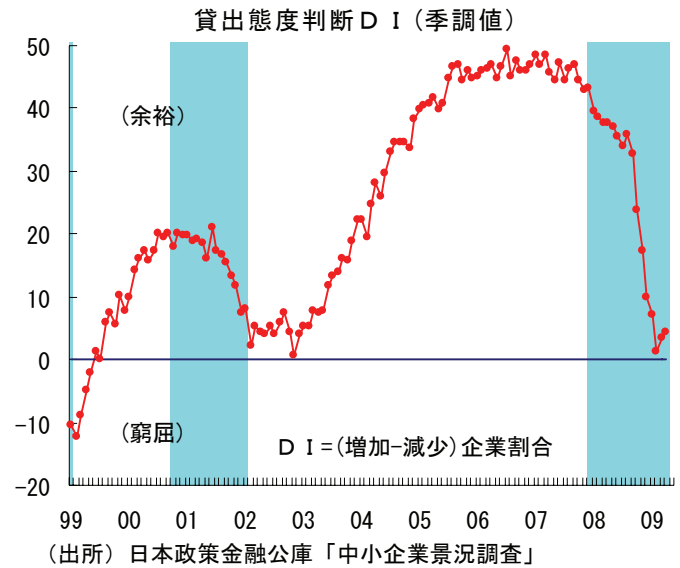
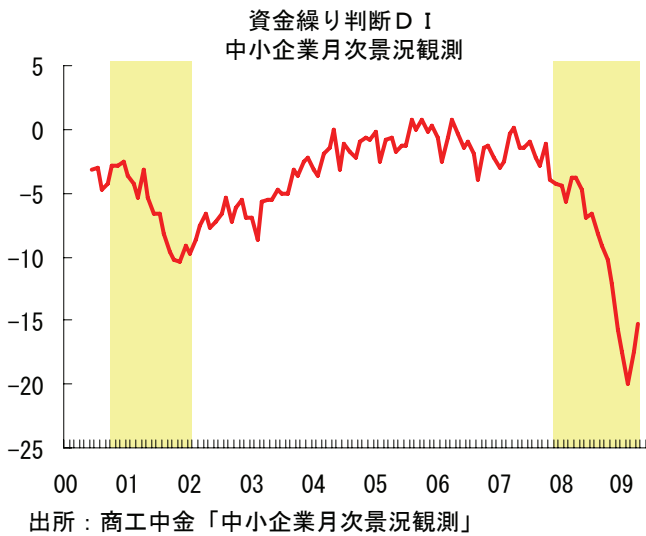
## ○ 自動車関連が大きく改善

中小企業景況調査を分野別にみると、乗用車関連の改善が目につく。改善幅が非常に大きい(4月▲11.8 ← 3月▲78.6)ことに加え、3ヶ月後の売上見通しでは+26.4とプラス転化を見込んでいる。また、家電関連も比較的大きく改善している(4月▲11.1 ← 3月▲35.0)。

中小企業月次景況観測においても同様に輸送用機械の改善が続いているほか、鉄鋼も3ヶ月連続で改善した。また、化学や電気機械についても、4月は足踏みしたものの、このところ改善傾向にある。これらの業種では、①昨年末以降の急激な減産の効果によって在庫調整に一巡感が出てきたこと、②海外での在庫調整進展や中国の景気対策効果などに伴って輸出が下げ止まりつつあること、などがプラスに寄与していると考えられる。

そのほか目に付いたのは、企業金融関連に僅かながら改善の兆しが出ていることである。企業の資金繰り

D I は両調査とも緩やかな改善傾向にあるほか、貸出態度判断D I も僅かではあるが2ヵ月連続で悪化が弱まっている。公的信用保証枠の拡充などの政策効果が徐々に効果をあげつつある可能性があるだろう。



### ○ 雇用・設備の過剰感は強い

一方で悪材料としては、設備や雇用の過剰感が引き続き強いことが挙げられる。中小企業月次景況観測では、雇用判断、設備判断とも過剰感がさらに強まっている。中小企業景況調査では小幅改善しているものの、改善幅は非常に小さく、過剰感の水準も極めて高い。マクロでみた雇用環境は、今のところ景気の悪化度合いに比べて調整が限定的なものにとどまっているが、今後は本格的な悪化に向かう可能性が高いと判断される。設備投資については既に大幅に減少しているが、先行きもこの傾向が続くだろう。前述の通り、足元で景気には持ち直しの動きが出始めているのだが、雇用や設備投資といった景気に遅行する傾向のある部門が今後も足を引っ張ることが予想される。景気は回復に向かうにしても、高成長実現へのハードルは高い。

